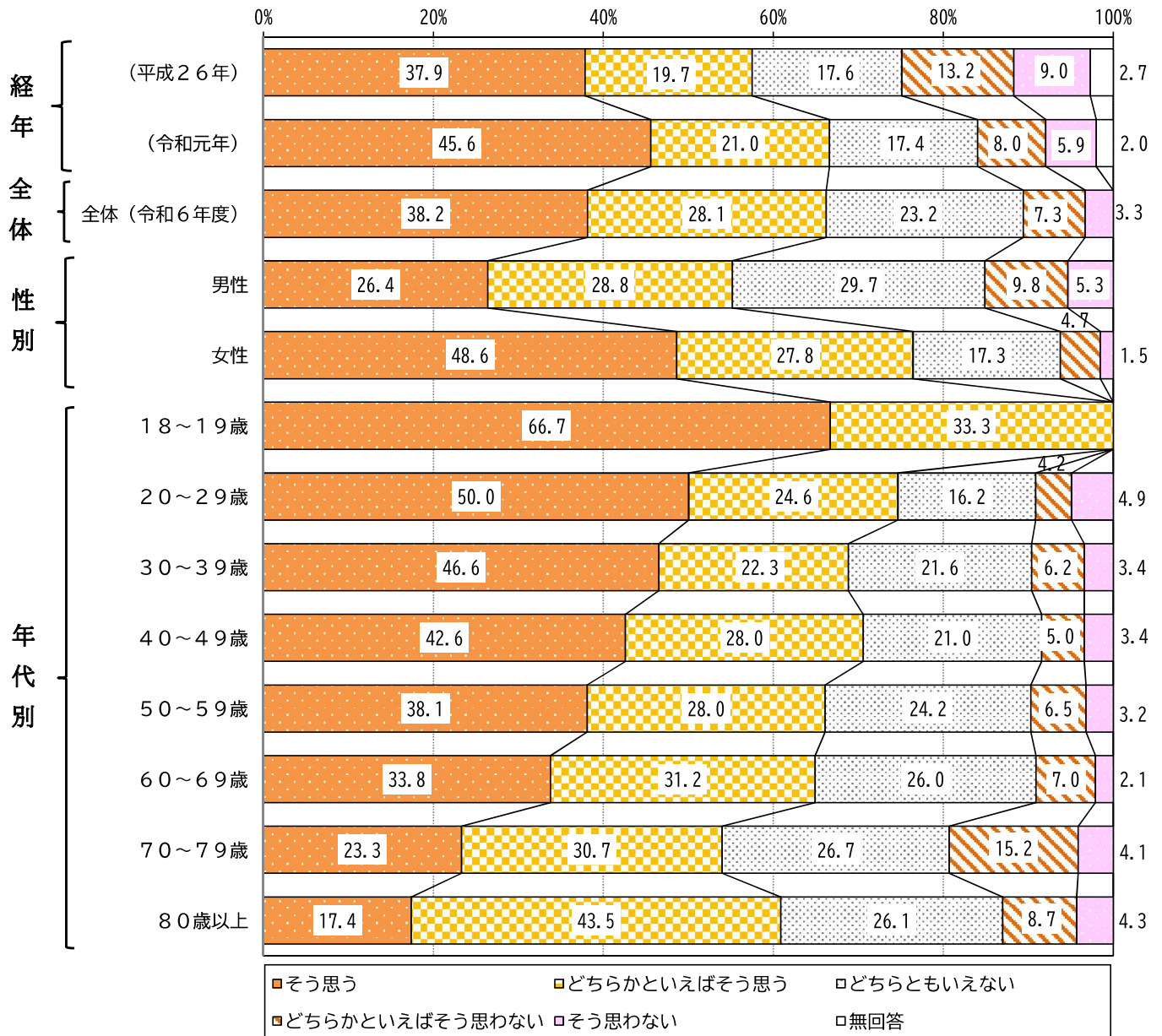


## 6. 家庭生活等について

### (1) 結婚、家庭、離婚についての意見（問14）

問14 結婚、家庭、離婚について、あなたのお考えをお伺いします。アからエまでの各項目ごとに「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」など五つの選択肢の中からそれぞれ一つ選んでください。

図表14-ア 結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい  
(N=2,000) (経年・全体・性別・年代別)



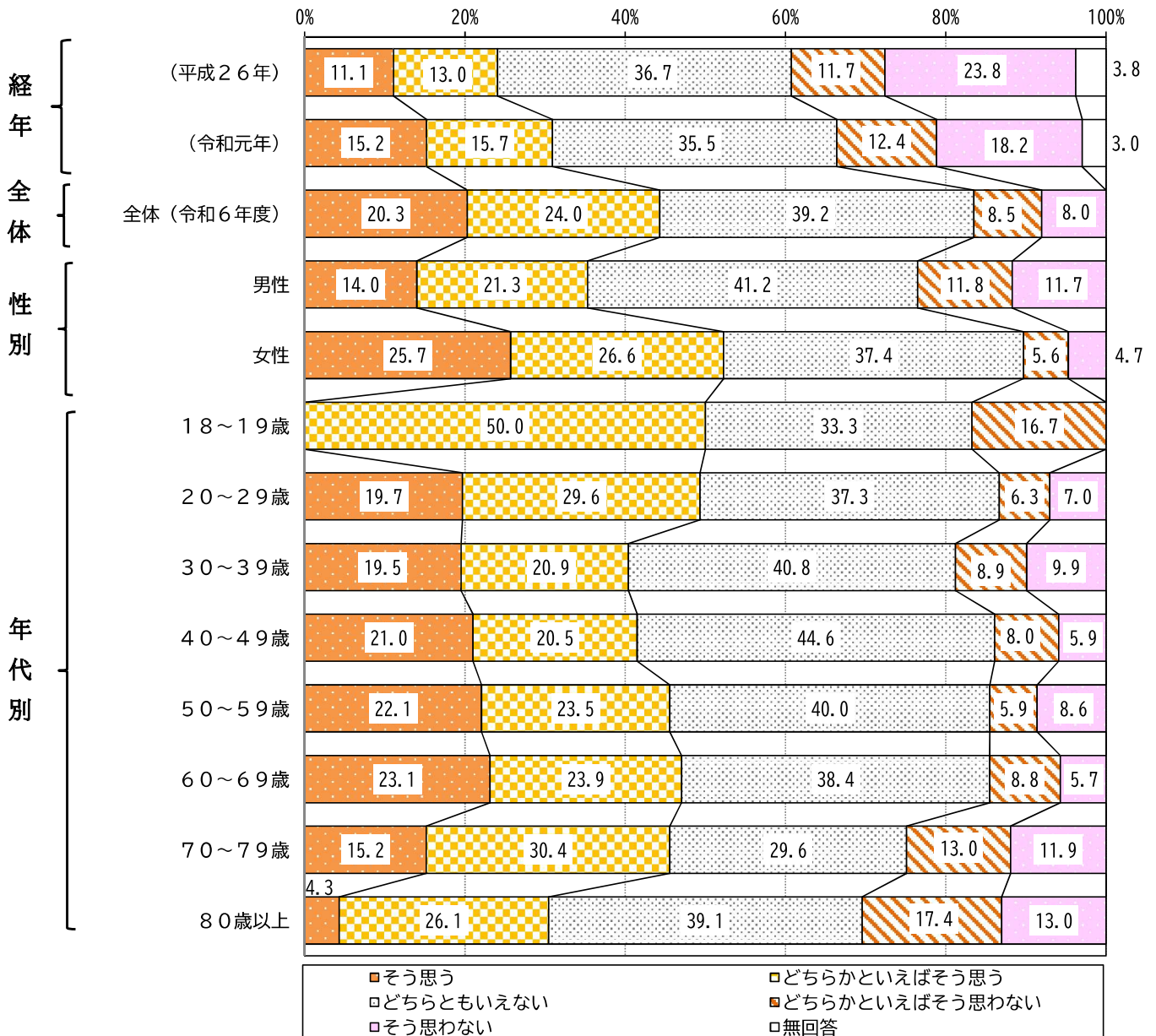
『結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい』という考えについては、全体では、「そう思う」(66.3%)と回答した者(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計(以下同じ))の割合は、「そう思わない」(10.6%)(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計(以下同じ))を上回っている。

過去の調査と比較すると、「そう思う」と回答した者の割合は、前回調査(令和元年)から0.3ポイント減少し、「どちらともいえない」と回答した者の割合は5.8ポイント増加している。

性別でみると、「そう思う」と回答した者の割合は、男性(55.2%)より女性(76.4%)の方が高くなっている。

年代別でみると、いずれの年代も「そう思う」と回答した者の割合が5割以上で、特に18~19歳(100.0%)、20歳代(74.6%)と高くなっている。

図表14-イ 夫婦が別姓を名乗るのを認めた方がよい (N=2,000)  
(経年・全体・性別・年代別)



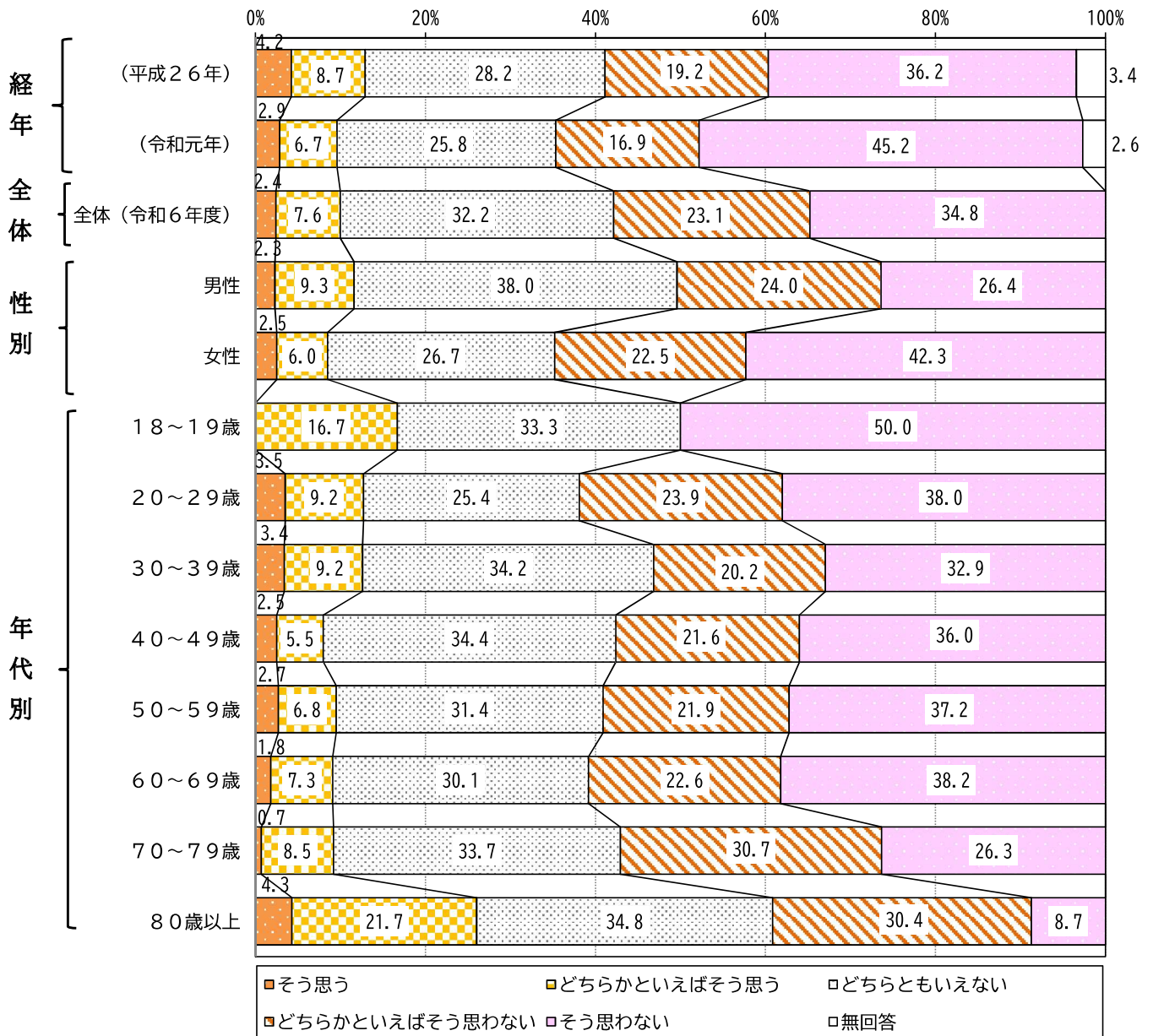
『夫婦が別姓を名乗るのを認めた方がよい』という考えについては、全体では、「そう思う」(44.3%) (「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計(以下同じ))と回答した者の割合が高くなっており、「そう思わない」(16.5%) (「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計(以下同じ))を上回っている。

過去の調査と比較すると、「そう思う」と回答した者の割合は、前回調査(令和元年)から13.4ポイント増加、「そう思わない」と回答した者の割合は14.1ポイント減少している。

性別でみると、「そう思う」と回答した者の割合は、男性(35.3%)より女性(52.3%)の方が高くなっている。

年代別でみると、20～60歳代、80歳以上は「どちらともいえない」と回答した者の割合が高く、18～19歳は「そう思う」(50.0%)が高くなっている。

図表14-ウ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に賛成である（N=2,000）  
（経年・全体・性別・年代別）



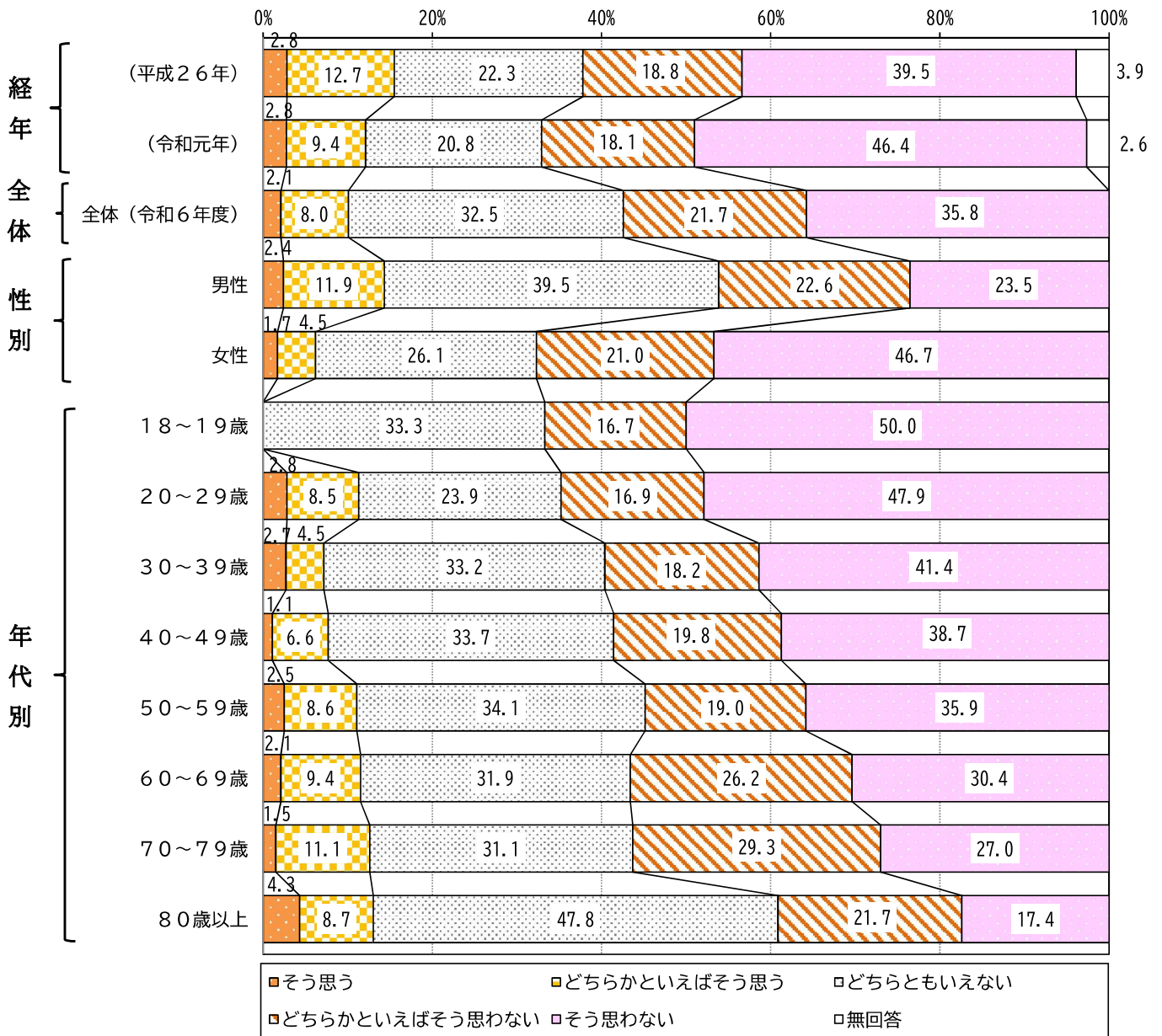
『「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に賛成である』という考えについては、全体では、「そう思わない」（57.9％）と回答した者（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計（以下同じ））の割合は、「そう思う」（10.0％）（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計（以下同じ））を上回っている。

過去の調査と比較すると、「そう思わない」と回答した者の割合は、前回調査（令和元年）から4.2ポイント減少し、「どちらともいえない」と回答した者の割合は6.4ポイント増加している。

性別でみると、「そう思わない」と回答した者の割合は、男性（50.4％）より女性（64.8％）の方が高くなっている。

年代別でみると、80歳以上以外の年代は「そう思わない」と回答した者の割合が5割以上と高く、特に20歳代（61.9％）と60歳代（60.8％）は高くなっている。

図表14-エ 仕事を持っている場合でも、家事・育児は女性がする方がよい (N=2,000)  
(経年・全体・性別・年代別)



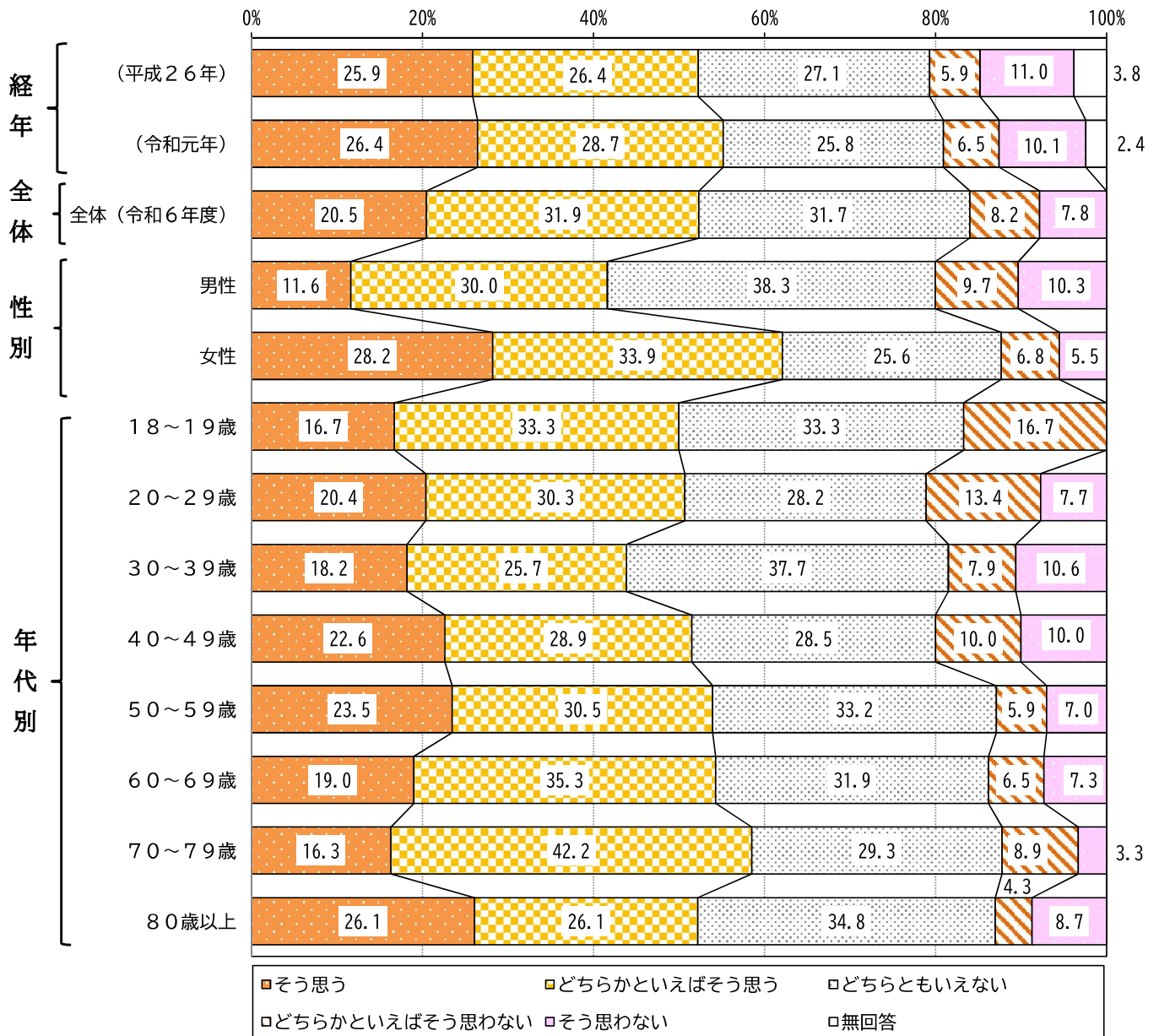
『仕事を持っている場合でも、家事・育児は女性がする方がよい』という考えについては、全体では、「そう思わない」(57.5%)と回答した者(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計(以下同じ))の割合は、「そう思う」(10.1%) (「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計(以下同じ))を上回っている。

過去の調査と比較すると、「そう思わない」と回答した者の割合は、前回調査(令和元年)から7.0ポイント減少、「どちらともいえない」と回答した者の割合は11.7ポイント増加している。

性別でみると、「そう思わない」と回答した者の割合は、男性(46.1%)より女性(67.7%)の方が高くなっている。

年代別でみると、80歳以上以外の年代は「そう思わない」と回答した者の割合が5割以上と高く、特に18~19歳代(66.7%)と20歳代(64.8%)は高くなっている。

図表14-オ 一般に今の社会では離婚すると女性の方が不利である（N=2,000）  
（経年・全体・性別・年代別）



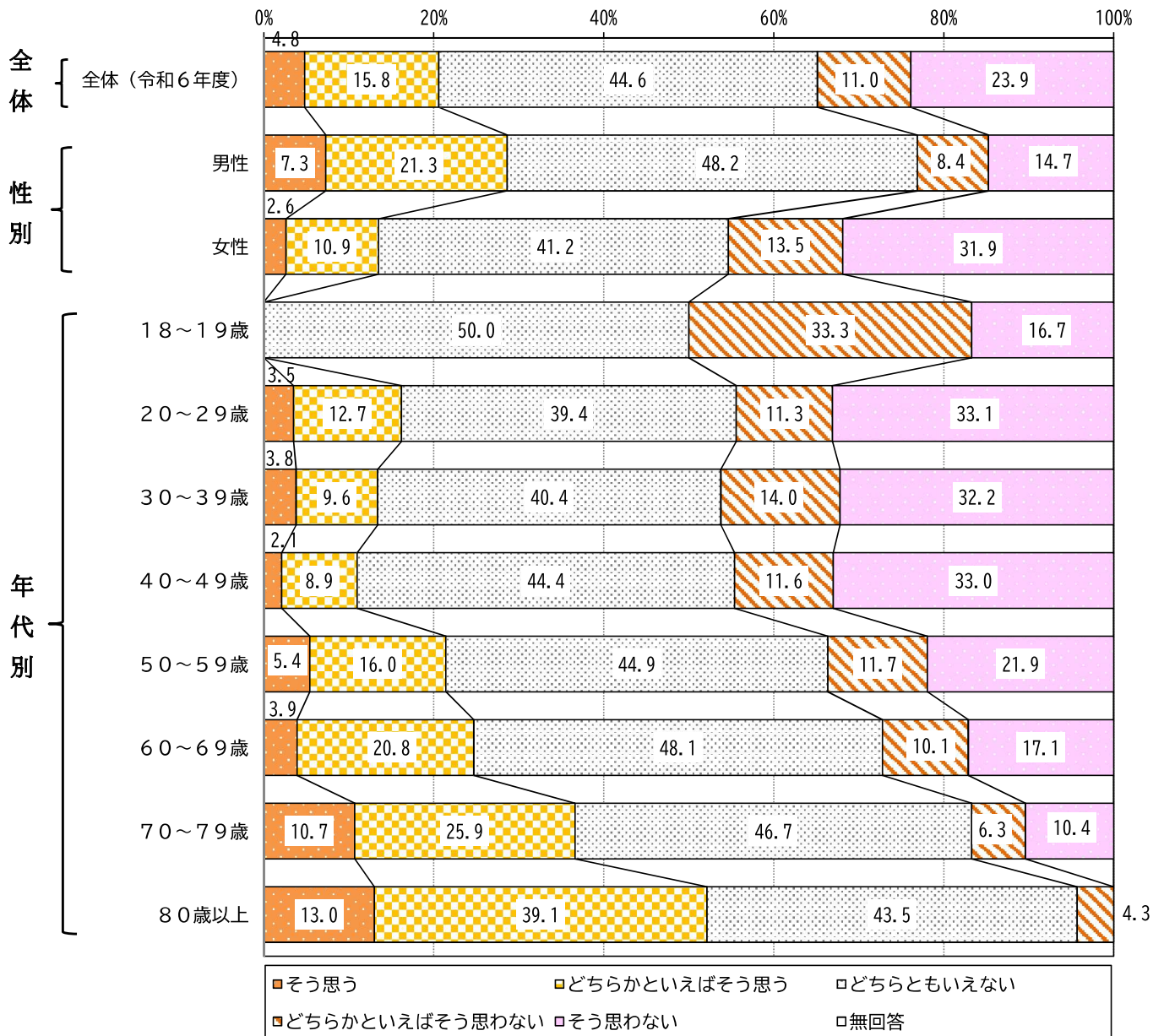
『一般に今の社会では離婚すると女性の方が不利である』という考えについては、全体では、「そう思う」（52.4％）と回答した者（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計（以下同じ））の割合は、「そう思わない」（16.0％）（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計（以下同じ））を上回っている。

過去の調査と比較すると、「そう思う」と回答した者の割合は、前回調査（令和元年）から2.7ポイント減少、「どちらともいえない」と回答した者の割合は5.9ポイント増加している。

性別でみると、「そう思う」と回答した者の割合は、男性（41.6％）より女性（62.1％）の方が高くなっている。

年代別でみると、30歳代以外の年代は「そう思う」と回答した者の割合が5割以上と高く、特に70歳代（58.5％）は高くなっている。

図表14-カ 結婚したら、子どもを持つべきだ (N=2,000)  
(全体・性別・年代別)



新規項目の設問であり、『結婚したら、子どもを持つべきだ』という考えについては、全体では、「どちらともいえない」(44.6%)と回答した者の割合が高くなっており、「そう思わない」(34.9%) (「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計(以下同じ))は、「そう思う」(20.6%) (「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計(以下同じ))を上回っている。

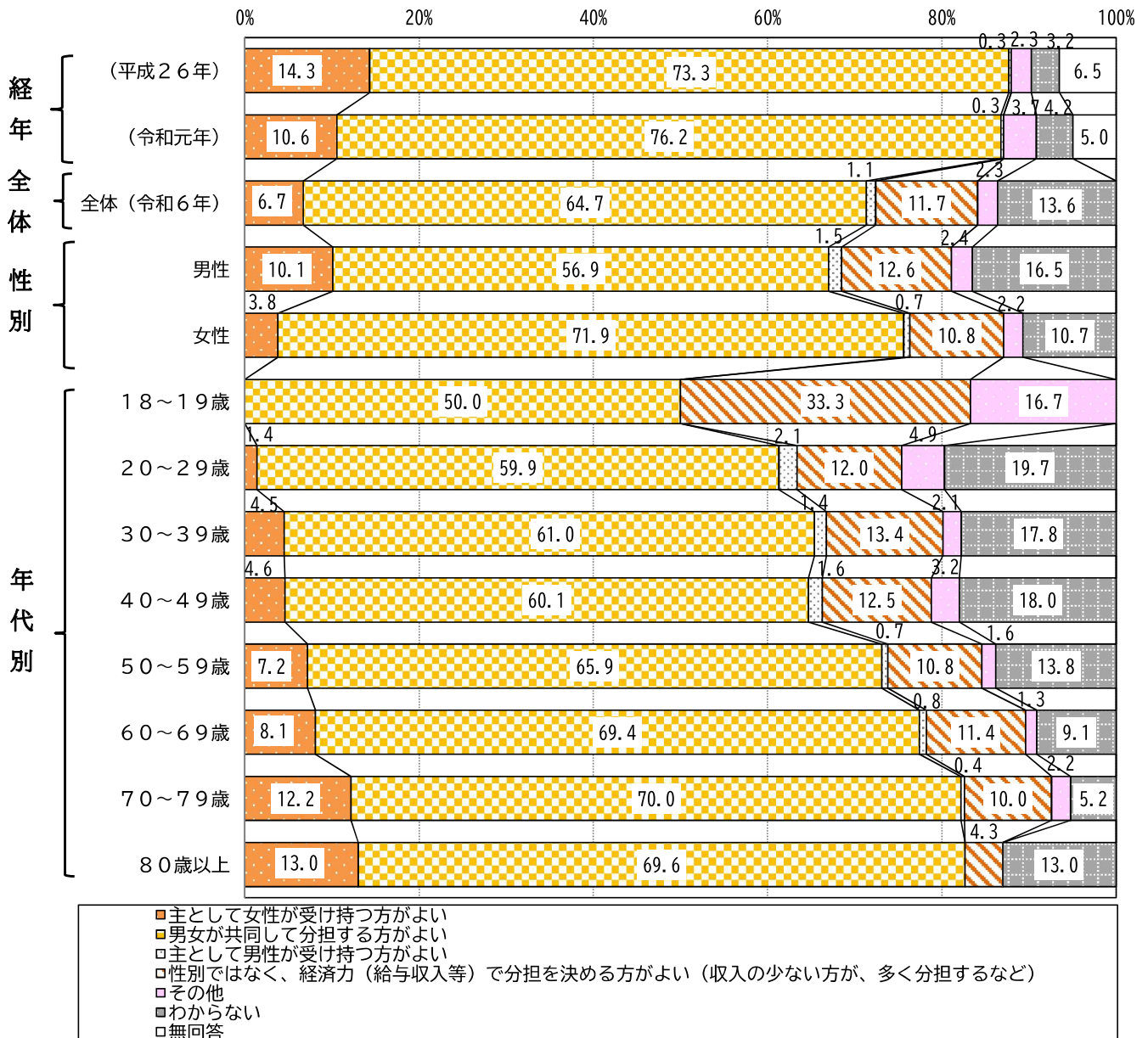
性別でみると、男性は「そう思う」(28.6%)と回答した者の割合が「そう思わない」(23.1%)と回答した者の割合を上回っており、女性は「そう思わない」(45.4%)と回答した者の割合が「そう思う」(13.5%)と回答した者の割合を上回っている。

年代別でみると、いずれの年代も「どちらともいえない」と回答した者の割合が高くなっており、70歳以上は「そう思う」が「そう思わない」を上回っており、60歳代以下は「そう思わない」が「そう思う」を上回っている。

## (2) 家庭内の家事・育児・介護の分担等 (問15-1)

問15-1 家庭内の家事・育児・介護の分担について、あなたはどのようにお考えでしょうか。あなたのお考えに近いものを次の中から一つ選んでください。

図表15-1 家庭内の家事・育児・介護の分担等 (N=2,000) (経年・全体・性別・年代別)



『家庭内の家事・育児・介護の分担等』に関する考えについては、全体では、「男女が共同して分担する方がよい」(64.7%)と回答した者の割合が最も高くなっており、次いで、「わからない」(13.6%)、「性別ではなく、経済力（給与収入等）で分担を決める方がよい」(11.7%)となっている。

過去の調査と比較すると、「男女が共同して分担する方がよい」と回答した者の割合は、前回調査（令和元年）から11.5ポイント減少し、「わからない」は9.4ポイント増加している。

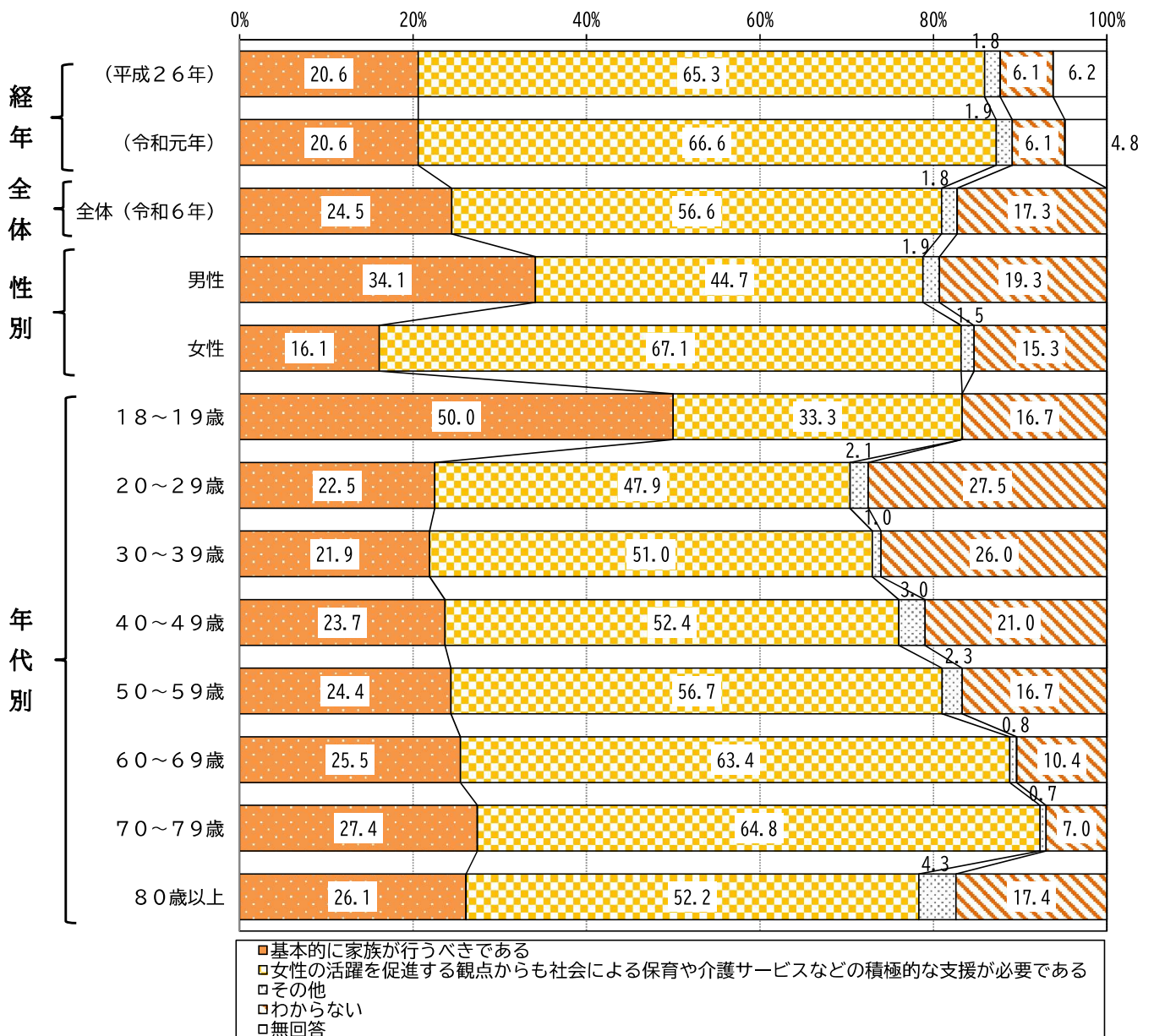
性別でみると、「男女が共同して分担する方がよい」と回答した者の割合は、男性（56.9%）より女性（71.9%）の方が高くなっている。

年代別でみると、いずれの年代も「男女が共同して分担する方がよい」と回答した者の割合が5割以上と高く、特に60歳代以上（おおよそ7割）と高くなっている。

## (3) 育児・介護に対する社会支援（問15-2）

問15-2 育児・介護に対する社会支援について、あなたはどのようにお考えでしょうか。あなたのお考えに近いものを次の中から一つ選んでください。

図表15-2 育児・介護に対する社会支援（N=2,000）（経年・全体・性別・年代別）



『育児・介護に対する社会支援』に関する考えについては、全体では、「女性の活躍を促進する観点からも社会による保育や介護サービスなどの積極的な支援が必要である」（56.6%）と回答した者の割合が最も高くなっており、次いで、「基本的に家族が行うべきである」（24.5%）、「わからない」（17.3%）となっている。

過去の調査と比較すると、「女性の活躍を促進する観点からも社会による保育や介護サービスなどの積極的な支援が必要である」と回答した者の割合は、前回調査（令和元年）から10.0ポイント減少し、「基本的に家族が行うべきである」は3.9ポイント増加している。

性別でみると、「女性の活躍を促進する観点からも社会による保育や介護サービスなどの積極的な支援が必要である」と回答した者の割合は、男性（44.7%）より女性（67.1%）の方が高くなっている。

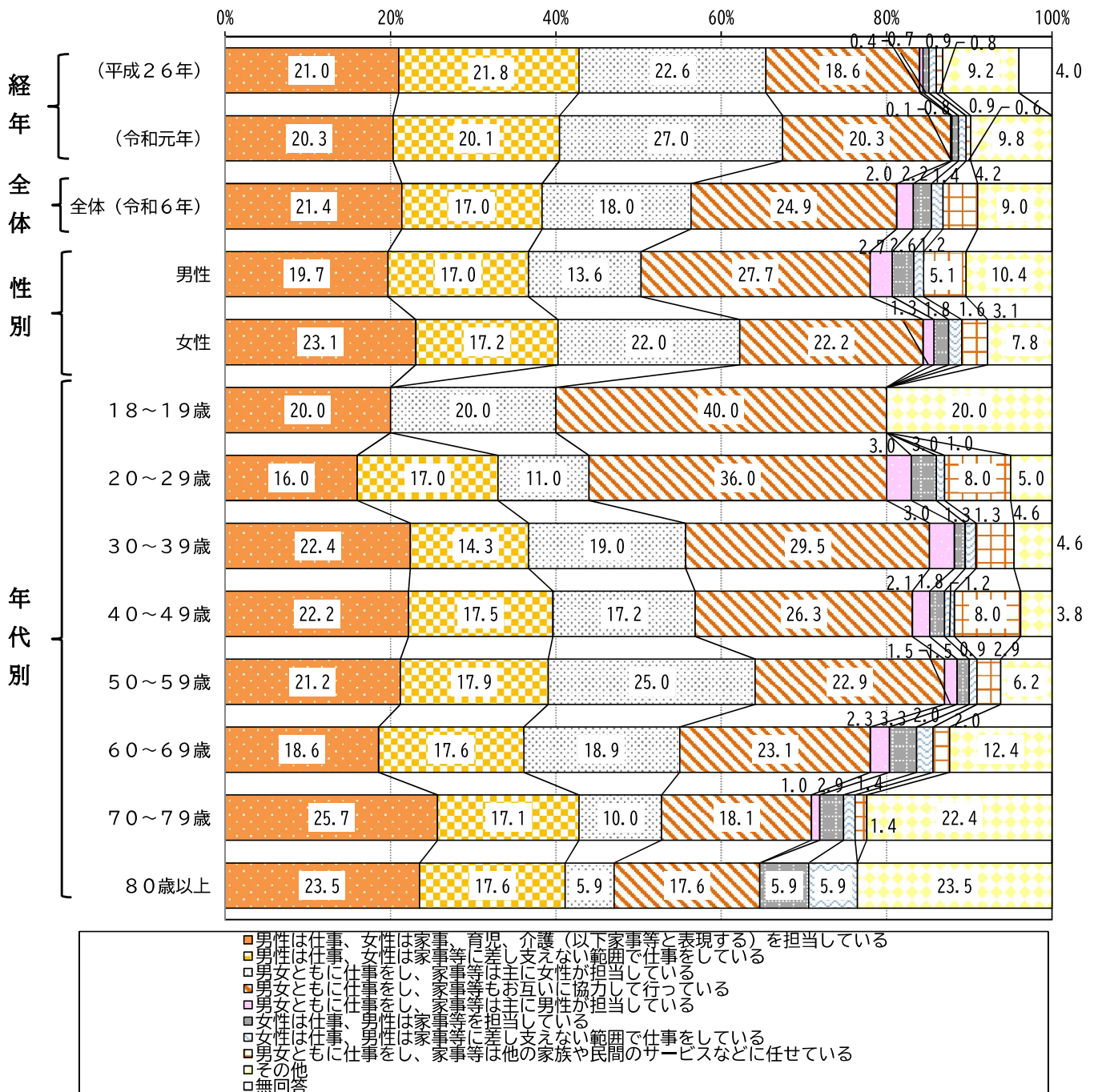
年代別でみると、18～19歳以外の年代は「女性の活躍を促進する観点からも社会による保育や介護サービスなどの積極的な支援が必要である」と回答した者の割合が最も高くなっている。

## (4) 家庭での役割分担の現状 (問16)

※問 16、17 へは、現在、夫や妻(事実婚や単身赴任など別居中を含む)などのご家族がいらっしゃる方がお答えください。いらっしゃらない方は、問 16/問 17 をスキップし、問 18 へお進みください。

問16 実際のあなたのご家族の生活として一番近い姿はどれですか。次の中からあてはまるものを一つ選んでください。

図表16 家庭での役割分担の現状 (N=1,554) (経年・全体・性別・年代別)



家庭での役割分担の現状については、全体では、「男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている」(24.9%)と回答した者の割合が最も高くなっており、次いで、「男性は仕事、女性は家事等を担当している」(21.4%)、「男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している」(18.0%)となっている。

過去の調査と比較すると、「男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている」と回答した者の割合は、前回調査(令和元年)から4.6ポイント増加し、「男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している」は9.0ポイント減少している。

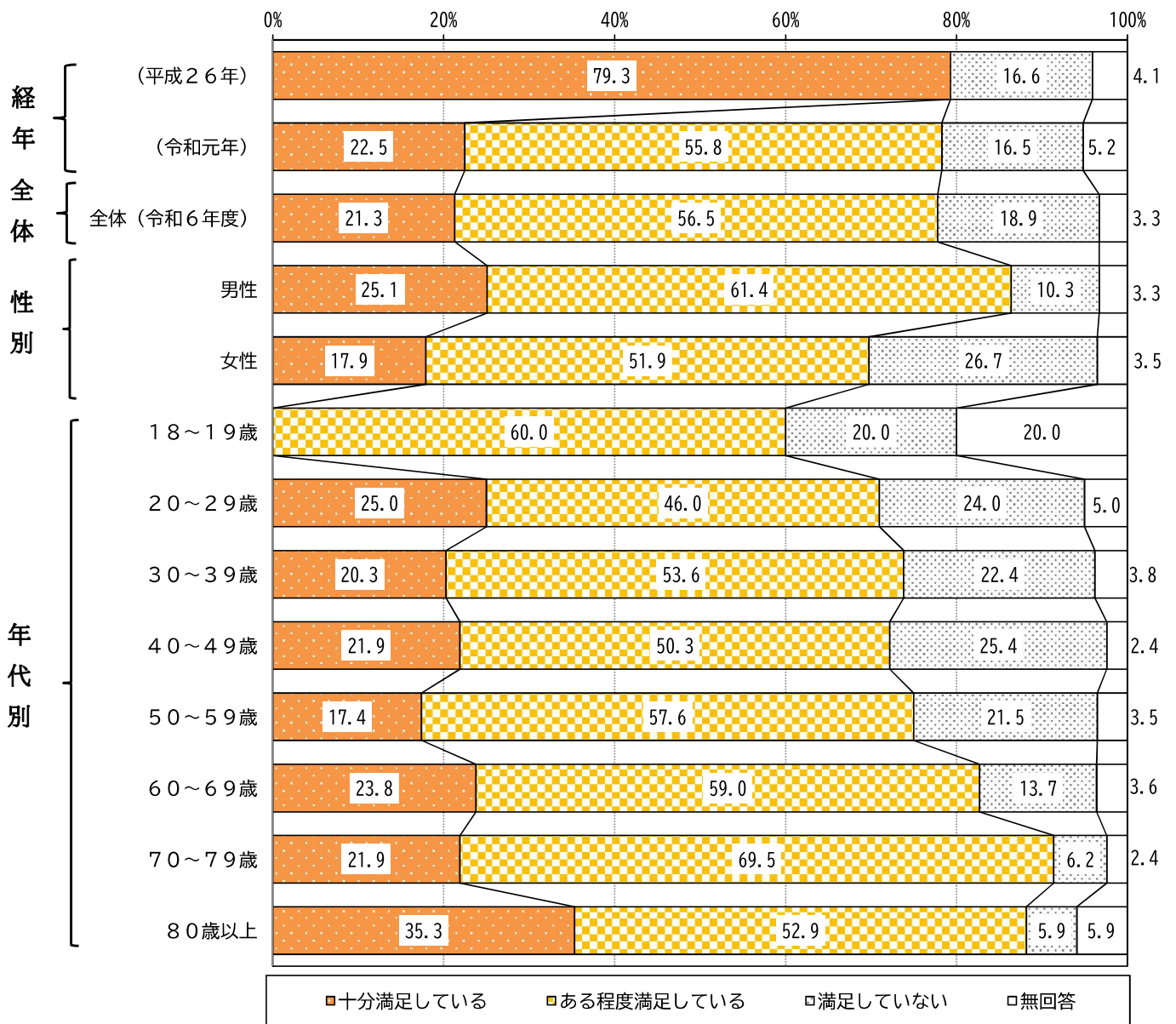
性別でみると、男性は「男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている」(27.7%)と回答した者の割合が最も高くなっており、女性は「男性は仕事、女性は家事等を担当している」(23.1%)と回答した者の割合が最も高くなっている。

年代別でみると、18～40 歳代と 60 歳代は「男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている」と回答した者の割合が高くなっており、50 歳代は「男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している」(25.0%)、70 歳代以上は「男性は仕事、女性は家事等を担当している」がそれぞれ最も高くなっている。

## (5) 家庭での役割分担の現状に対する満足度 (問17)

問17 問16でお答えいただいた実際のご家族の生活の姿について、あなたはどのように感じていますか。次の中からあてはまるものを一つ選んでください。

図表17 家庭での役割分担の現状に対する満足度 (N=1,554) (経年・全体・性別・年代別)



家庭での役割分担の現状に対する満足度については、全体では、「満足している」(77.8%)と回答した者(「十分満足している」と「ある程度満足している」の合計(以下同じ))の割合は、「満足していない」(18.9%)を上回っている。

過去の調査と比較すると、「満足している」と回答した者の割合は、前回調査(令和元年)から0.5ポイント減少し、「満足していない」は2.4ポイント増加している。

性別でみると、「満足している」と回答した者の割合は、女性(69.8%)より男性(86.5%)の方が高くなっている。

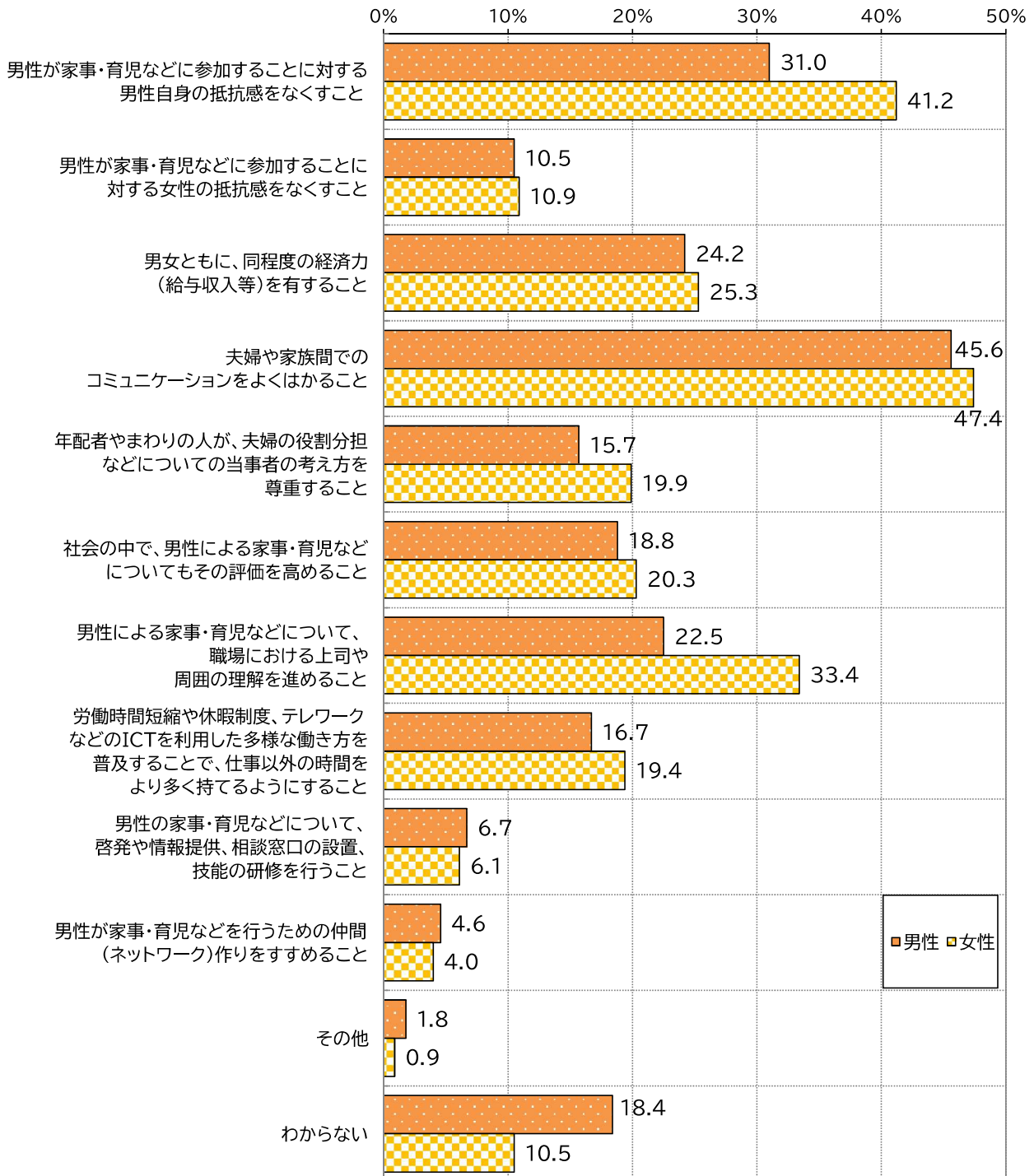
年代別でみると、60歳代以上は「満足している」と回答した者の割合が8割以上と高く、特に70歳代(91.4%)は高くなっている。

## (6) 男性の家事等への参加に必要な条件 (問18)

問18 今後、男性が女性とともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から三つまで選んでください。

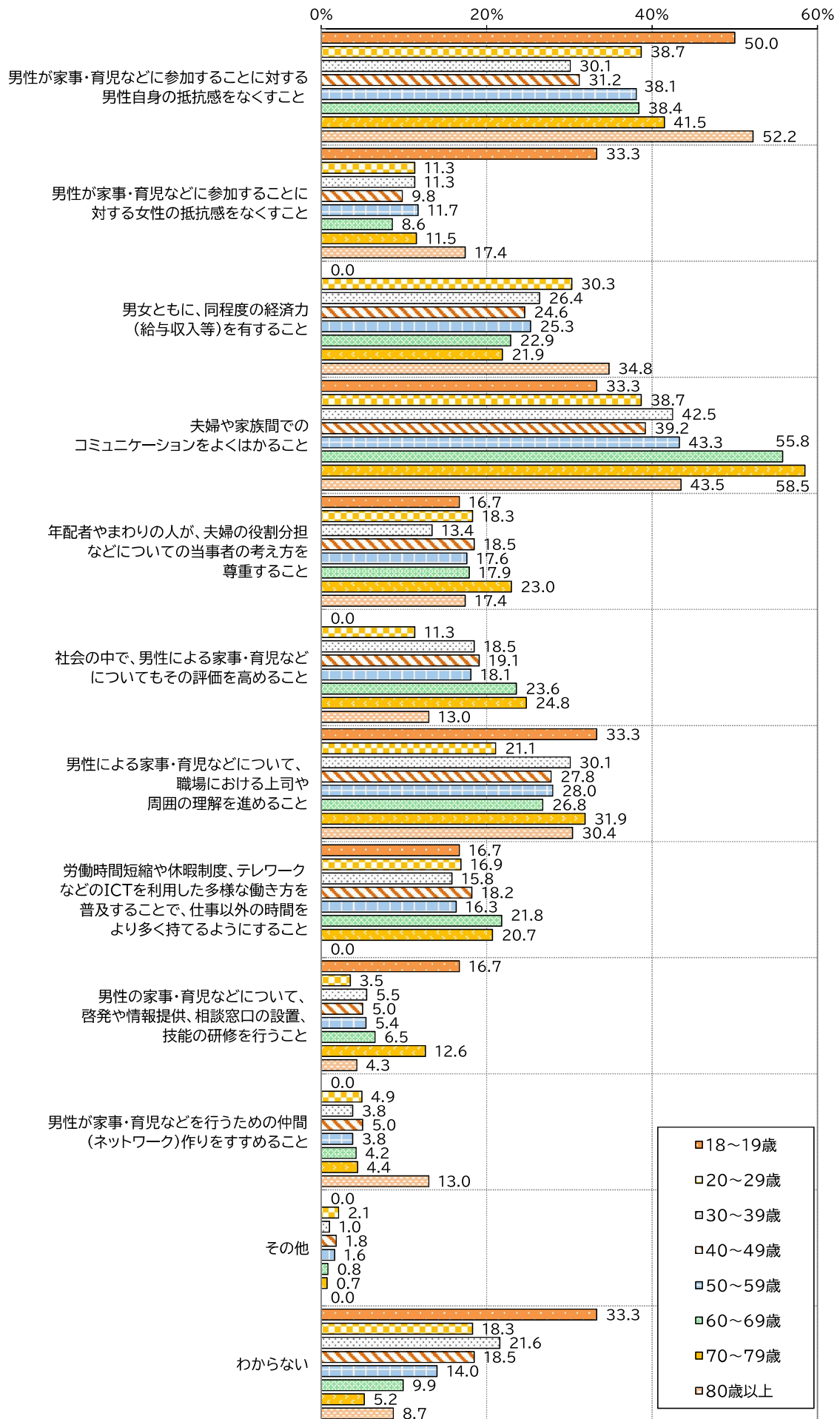
図表18-1 男性の家事等への参加に必要な条件 (性別)

(N=男性 939 女性 1,039)



男女がともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要な条件については、性別で見ると、男性・女性ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(男性45.6%、女性47.4%)と回答した者の割合が最も高く、次いで、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(男性31.0%、女性41.2%)の順になっている。

図表 18-2 男性の家事等への参加に必要な条件 (N=2,000) (年代別)



年代別でみると、30～70 歳代は、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と回答した者の割合が最も高く、18～19 歳と 80 歳以上は「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、20 歳代は「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」（同率で 38.7%）がそれぞれ最も高くなっている。